

# 大転子移動術により治療した子牛における 股関節脱臼3症例

田村倫也<sup>1)†</sup> 工藤 力<sup>2)</sup> 庄野春日<sup>3)</sup> 坂本沙織<sup>4)</sup>  
尾形 透<sup>5)</sup> 吉田晴香<sup>2)</sup> 千葉恵樹<sup>1)</sup>



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76\\_e116\\_article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76_e116_article-char/ja)

- 1) 岩手県農業共済組合 北岩手家畜診療所 (〒028-4125 盛岡市好摩字上山3-38)
- 2) 岩手県農業共済組合 岩手県南基幹家畜診療所 (〒023-0023 奥州市水沢字八反町52-1)
- 3) 岩手県農業共済組合 遠野家畜診療所 (〒028-0555 遠野市土淵町土淵19-20-7)
- 4) 岩手県農業共済組合 北部家畜診療所 (〒028-6506 九戸郡九戸村大字山屋2-25-1)
- 5) 岩手県農業共済組合 葛巻家畜診療所 (〒028-5402 岩手郡葛巻町葛巻20-96-3)

(2022年7月12日受付・2022年12月15日受理・2023年5月26日公開)

## 要 約

子牛の股関節脱臼3症例に対し大転子移動術による治療を実施し長期経過を観察した。症例は1～85日齢で発症し、全例が前背方脱臼と診断され、発症から手術までの日数は9～16日であった。手術は全静脈的鎮静不動化処置の下に実施し、頭外側アプローチにより股関節を露出させ脱臼を整復、切断後の大転子は遠位に移動させスクリュー及びテンションバンドワイヤーを用いて大腿骨へ固定した。全例で術後14日目までに支柱肢跛行が消失した。症例1は経過中に他の外傷を発症し早期淘汰された。症例2は19カ月齢、症例3は31カ月齢まで良好に発育し、子牛の股関節脱臼に対する大転子移動術の有用性が示唆された。——キーワード：子牛，股関節脱臼，大転子移動術。

-----日獣会誌 76, e116～e121 (2023)